

第二十五回（株）USEN 番組審議会 議事録

開催日時：平成 20 年 11 月 14 日 13：00～

開催場所：（株）USEN ミッドタウンタワー33F

F07 会議室

出席者 委員：小林亜星、有馬祐行、山本武司、湯川れい子、富澤一誠（順不同・敬称略）

放送局側：6 名

議事内容

1. 会社動向、放送事業についての報告

2. 番組課題

A/E-57 USEN MONTHLY SPECIAL 11 月「ジャズで聴く J-POP」について

3. 番組審議

- 本チャンネルのターゲットは 30 代～50 代。USEN 音楽放送には JAZZ のチャンネルが豊富であり、その年代に支持されている。
- 本格的なチャンネルと、気軽に聴けるチャンネルのどちらが人気があるのか、興味深い。
- クオリティの高い、ある程度の本物志向のカバーが人気を集めている。
- 本チャンネルの楽曲は、ジャズアレンジではあるが、サクソなどが入ると重くなるので、ピアノトリオを中心に選曲し、軽さを出している。
- こういった音源でヴォーカルが入っているものはあまりないので、ヴォーカル入りバージョンも今後ビジネスチャンスと成りうる分野かもしれない。
- フィジカルな CD が売れなくなっている現状では、こういった再利用が有効であり、必要。
- セッション風にはなっておらず、クラシック風な品のある番組になっているところが良い。
- 無名だが腕のあるミュージシャンを使って、こういった音源を USEN のスタジオで制作することもできる。
- ジャズアレンジとひとことで言っても、ポピュラリティーとアドリブを両立させるのは非常に高度なことである。また、出版ビジネスの役割という観点からも、既存の楽曲をアレンジを変えて再度世の中に広めるという取り組みは意義深い。
- 古い曲と新しい曲を同じ土俵で聴けるのも良い点である。また、ジャズを好きになるきっかけにもなりうるだろう。常設チャンネル化を検討するに値するチャンネル。
- A/E-57 USEN MONTHLY SPECIAL は、常設チャンネル化を念頭においたトライアルを行う場でもある。
- ザ・ベストテンや、夜のヒットスタジオがなくなった 80 年代から、ウォークマンの普及もあり、音源と耳の距離が狭まっていった。これにより、音楽を聴くときに、時間と空間を共有しづらくなった。ここを埋めるのも、USEN の役割。
- J-POP だけでなく、その他のジャンルも扱って間口を広げたいところ。
- A/E-57 USEN MONTHLY SPECIAL は会報誌 With Music のジャンル別番組表から見つけづらいので、改善すべき。
- 本チャンネルの今後の課題は、クオリティを落とさずに、更に豊富な楽曲数を揃えていくことである。